循環型林業に貢献できるように

株式会社サイプレス・スナダヤ 代表取締役　砂田和之

我が国の林業、木材業を取り巻く環境は、問題点と明るい可能性を持ち合わせていると考えられます。

第二次大戦後に植林された森林が今日十分伐採可能な立木として成長し、その蓄積量は40数億立方メートルと膨大な量となり、また我が国の国土に対する森林率は約70％と世界的にも有数の森林国となっています。その森林の成長量は年間１億立方メートル近くあり、国内で使用する全木材量を大きく上回っています。それらの木材は主に木造住宅の構造用材や製紙用原料として用いられますが、主力の住宅着工に大きな伸びが考えられづらい環境の中で、どのようにして成長する森林を有効に活用してゆくか、また変化する住宅の建築様式や海外輸入木材製品との品質および価格競争にどのようにして対応してゆくかが大きな問題となっています。

弊社はもともと北米輸入材の製材メーカーでしたが、７年ほど前より国産桧原木の製材および構造用集成材を生産販売するようになりました。地元愛媛県が全国的にも桧の産地であることや、これまで木造住宅構造材の主力として使われて来ていた輸入材に替わり、成長する国産材で木造住宅構造材を安定供給してゆきたいとの思いでした。

これまで国産の桧、杉原木は市況相場によって価格が大きく左右されることから、価格が下落した場合、山林出荷者が出荷を嫌いそのため伐採を減少させ、その後また価格が暴騰するといった繰り返しの歴史の中で、商品として安定供給がなされず、結果として需要を失ってゆくという状況になっています。

以上のような国産材の状況下において、弊社は平成29年３月末完成を目指して、国産桧原木を大量に取り扱う製材工場と集成材工場の建設を本年５月から着工します。原木を山から直接弊社工場へ搬入し、これまで比較的価値の低かった小径木や曲がり材などの原木全般を効率よく製材できる欧州型の最新鋭工場です。そこから製材された木材を住宅用構造材の柱、梁、土台等の構造用集成材の原料として活用し、住宅建設に広く安定供給を図ってゆきたいと考えています。

また戸建て住宅のみならず、現在政府が強く力を注いで普及に努めている、次代の木質建材であるCLTの生産にも注力してゆきます。

CLTは木材を交互に縦と横に積層した大きなパネル状の製品で、強度や断熱性にも大変優れた性質を持ち、木材で３階建て以上の建設も可能であり、大型の建築物にも使用されることが期待されている、大きな可能性を持った木質建材です。

市場に国産材を受け入れてもらうためには、まず安定供給です。安定供給とは価格・品質・数量・納期の安定であり、これらの要素が実現できるよう、また新工場でのコストダウンによって、原料である原木に対して価値を還元できることを目指します。これまで大切に森林を育ててきた林家の方々に再造林意欲を持ってもらうことができるように、林業に対して少しでも貢献でき、夢が持てる新工場にしてゆきたいと思います。

（すなだ　かずゆき）

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/